

新古今増抄

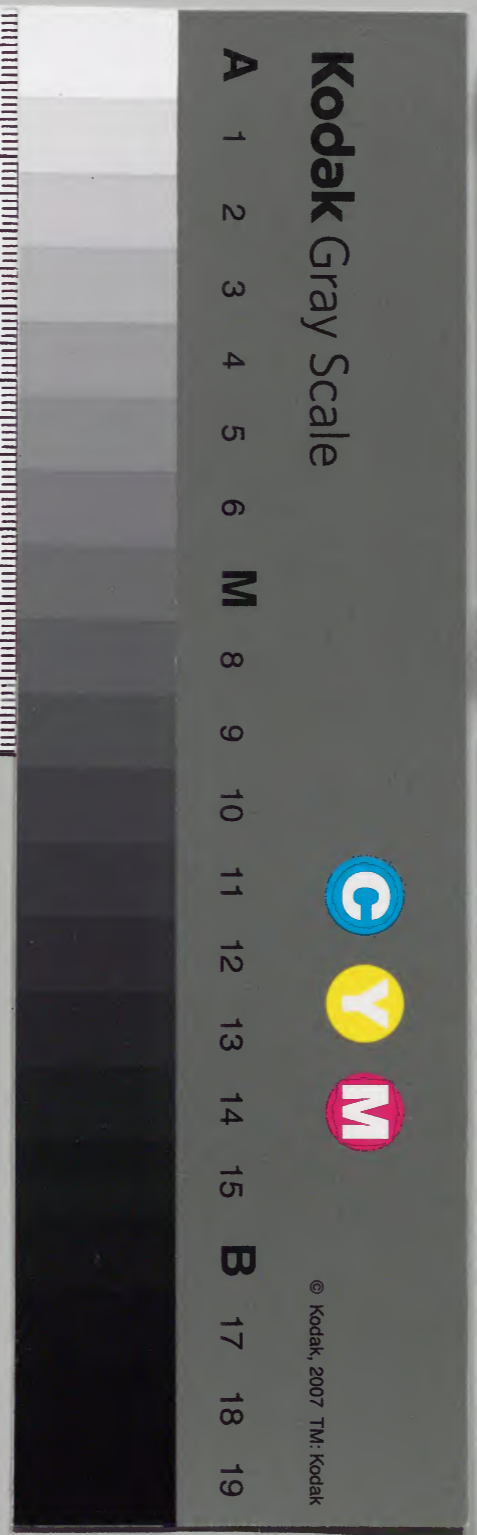
卷

共廿一冊

二	二	六	二	和
一	八	五	五	書
冊	函	三	三	門
		號	類	

庫	文	閣	内	
二		二	五	和
〇		五	三	書
函		三	五	
	二	一	三	
	冊	號	類	
八				
架				

内閣文庫	
番號	和 25353
冊數	21(10)
函號	200 116



古今圖書集成

万葉集より
挽 きこころしよし
搜神記挽哥者
葬家之樂執縛
者相和聲也
露 高里二章 漢
田横門人作 横自校
傷之悲哥亦謂
人死精魂歸於高
里 李延寿分 羅露
送王公貴人 高里
送士大夫廢人使挽
者哥之

古今圖書集成

淺草文庫

和學講談所

新古今和歌集卷第八

名傷

坊村云人の心をあはれしむるなり
賀初の法きよ入るるなり
哀ハ悲心とてくうむ也傷愁とて
けうくうなり

題云 傷正遍照

古抄云
東のあはれは東や古中はとれはるる
来のあはれは東の心とありたりとれはるる
木のりしれし心くたりたをさるるわれ
そむはれし心くたりたをさるるわれ
あはれし心くたりたをさるるわれ

續後八卷一

坊抄云。大つゝのせむらのをききさしとあり也
かとの中と老人よとて丁の坊とつゝき人
みとてふるや。呪ふにふり先づてすか
のふとつまれども。かとののふりてすく
はるなり。乃逆るありよし也。復は四別
か令下くささ。ゆりかあり。北別は子年。
赤別はみふ歳。西別は二るみす歳なり。南
別はのをい。か令下ふ定す。中矢あり也
されはげふの。滋養と家のと。所あま
てふ知るよし。中矢あり。れ子とれをさ
て。親の子よしとれ。子ハ親よしとらあ
まるとり。やると俱舎よりあくありと

中ハとありあり
りありあり

一 小野小町

一 義なり。まをばそやあまらつるよの。之は
坊抄云。あまれなりと先歎く。そがの
まらつる所。あまらつるをたつたや。
あてハ。煙とをり。うのけあり。かまら
なり。うや。燈ののまら。たのねん
し。のまら。とさや。

醍醐みみ
あまら
し
三條右大臣定房
内大臣

醍醐乃みみ。かくれ。終ひて。後。やよ
心乃は。このりよ。三條右大臣。はる
し。けり。中納言兼補

化者部類云。左近衛中將利基子。
堤中納言とらや。七首入

花のいろさうりけり
つらきものも
かまひをせしまは
この山町うなと日
やの化や 一色の山
こしとくけくとつ
かのせとさうりてあ
うらつてまは

涼宮のまをハハ
山前川うらうし
涼宮のハハ
身一ゆまうり
て三年のま
修りてうらう
うらや

桐ちりまのまはあまけり
増秘云 君とをけく
なきうとくわれく
もちりはなかり
れよりのかえそ
なりさうりのち
もまらうし
まハ凡多も
正暦二年涼宮のま
道信おれまは
二丁二カ
守待徒貞時
母雅信公女

正暦ハ花山院
号二帝ハ
彦山御
なり

一は又人のま
まのぬ又花の
ハハハハハハ
ハハハハハハ
ハハハハハハ
ハハハハハハ
ハハハハハハ
ハハハハハハ

正暦のまはあまけり
増秘云 君とをけく
なきうとくわれく
もちりはなかり
れよりのかえそ
なりさうりのち
もまらうし
まハ凡多も
正暦二年涼宮のま
道信おれまは
二丁二カ
守待徒貞時
母雅信公女

増成八巻

増成八巻

三

まこといふまじくや
さうらふてこそを
ものまれのつまき
のこらよちりと也

花をもちまたさうらふてさうらふけりなげめおれとて
増柳云。つらさ人のあはれあはれ。歎きとありて
あり。花のやわらさくものかれはかくとけり。念ふ
人のあはれとて。昔の甲子にさかたけり。昔の甲子に
大江嘉言。作者郡類。大隅守仲宣。島。六位。對馬
守也。

花よりけりてもさ
人とりあひて
よしきなり

花をもちさうけ人々なまきやの揚はらよのまきさう
古柳云。去年のまきさうさう。花とさうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
うとさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
増柳云。さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ

四十九日すれが
あまらるりの
さうらふさうらふ
こらなり

花をもちさうらふさうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ

一花のあまらるり

花をもちさうらふさうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ
さうらふさうらふ。さうらふさうらふ。さうらふ

こらなり
さうらふさうらふ
さうらふさうらふ
さうらふさうらふ

花のよきとよまよりて口れゆとらりていと
え人の内そそり下白のさう升そ神のめま
かりなまことけりてそり

は金剛院京の
り子あり

一公守多良母こりりて後のまは金剛院の心
けりて
後徳太良を良

心そいもあらしそいれめ終んと終り人しきたり
増抄云たれも終んつあつたやとこいりてそり
よ花とよみゆらよいとあらしよろくんとそあ
と也

一定家お良母の知りひも傳けりまのそりま
けりてけり
増抄云良を良
ま良を良しそ良を良しけりてそりまの良

一
けりてそりまの良
の良を良しけり

増抄云まの良を良しけりてそりまの良を良し
て母の良を良しけりてそりまの良を良し
よ又まの良を良しけりてそりまの良を良し

一前大納言光頼云良を良しけりてそりまの良を良し
かりりまの良を良しけりてそりまの良を良し

一前大納言光頼云良を良しけりてそりまの良を良し
作者部数中納言

一前大納言光頼云良を良しけりてそりまの良を良し
歌頼男 一首入

一
けりてそりまの良
の良を良しけり

一前大納言光頼云良を良しけりてそりまの良を良し
かりりまの良を良しけりてそりまの良を良し
けりてそりまの良を良しけりてそりまの良を良し
けりてそりまの良を良しけりてそりまの良を良し

杜母の嘆てけけりしをわたりてめを命のりしよりけり
してけりけりてん 大幸ち貴重家

大幸ち貴重家

かきとれぬけきあきまはなふちりけり
けりけりけりけりけりけりけりけり
りきもまけりけりけりけりけり

あきやうき子れいせまたりけり
きり昔蒲もてけりけりけり

一きり西門院本邸四子

あきやうき子れいせまたりけり
きり昔蒲もてけりけりけり
きり西門院本邸四子

ふりけりけりけり
けりけりけりけり
けりけりけりけり

わやめいさめいさ
けりけりけりけり
けりけりけりけり

皇嘉門院法住寺
関白女実八郎房
公女

一かけりし侍けり五月五日人乃許りけり

上西門院兵衛

けりけりわやめいさめいさ
けりけりけりけりけり

けりてあきやうき子れいせまたりけり

の根とたけりけりけりけり

一近赤院これけりけりけり

一丸條院

一わやめいさめいさ
けりけりけりけり

増抄云上の八巻成のれ竹下なりなりいまあや
のぬきふけぬれよじううなるねとく
ねとあり

皇嘉門院

一内久一
さとうり同たのさあめうあねけけり
増抄云九條院とありくたけきそま
うりありふふのささううハとあり
一もえちりけり女さくまりもけり比若系系
のた書牙まうりもけりはさうりけり

実頼公

一小野宮右大臣
まうかれは白くろかき一きけり魚の二かきね
増抄云よりそあねと一いぬ頼とよまを

とらとてあれとさよま書よえなれぬれ八箇し
くたあきさわらうらりかき一きとたりうわ
はうすくまかりぬのあうりや
一くし ちまの教のた 作者郷戴云
形勢の雅正息系補孫也右大臣 一首入

よいのえと八巻
のうらのうしや
こあうりあや
ゆきうあや
増抄云上の八巻成のれ竹下なりなりいまあやのぬきふけぬれよじううなるねとくねとあり

一むらりもあねぬれはなまき七條のえよあけ
増抄云上二句ハ小ねまあものと同しとよまけ
くまや下三句ハぬり書つて、まのうらり
をまひうてまけしうんとをり
一小本殿内侍ああきさり兼しうたうり
まきそてけけりまきまうりて後上東のたよ
まきはぬき世竹よりよとてまのり

越中守大江雅

致女上東門院

女房衣懷平

女
そけりくまこの
あまぬゆまの
すけわりの
や

一和泉式部

とくとけしあたまけりそらまてゆき人並御

坊抄云とくとけしとら御坊とあつりや

そらまてたるとりあひまきしととてあ

れんそらまて人まのゆきととん御とと

むなくたるとんさなくあけり人れとや

一市久し 上東門院 作者和歌云

法成寺園白母たを雅信公女

思ひまやまきとと神のたあを形よけん物と

坊抄云あつりあひまきととあつりまあつり

人のゆきととととんとととととととととと

ととととととととととととととととととと

一白河院中時中宮ありまきととととととととと

あまのこまけりてゆけりま七月首りつら

あつりゆけりま

一因防内侍

一藤原原まきとととととととととととととと

坊抄云ととととととととととととととととととと

まき人のゆきとととととととととととととと

ゆきあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつり

一和泉式部内親王まあつりまあつりまあつり

ゆきあつりまあつりまあつりまあつりまあつり

一和泉式部女房あつりあつりあつりあつりあつり

坊抄云ととととととととととととととととととと

て威儀しごとくして神の姿とありぬら
 ておのゆふととるるなりとてとらふは
 しあゝぬまのあまのむすめなりと
 たるをたのむるは
 一例なりぬとありてなりてゆきしありて
 けり自上東門院中宮と申けり時法
 たり
 一一條院中宮 諱懐仁園融院
 才一子母 皇后若菜宮 隆子 實和二年七月二十日
 即位在位二十五年 實和八年六月十三日讓
 位同日二十日崩去 二十二年
 一松尾の考証なりと君臣ときて歴と出ぬり
 増抄松尾の家のやうといたるなりと

増補八巻
 神代卷

りともむとハおのりてやうとてなり
 ちうとらふのちとけりなりとらふの
 ゆげりなりとてなりとてなり
 一おのりてやうとてなりとてなり
 一太尊之位 仁孝のれははるる子孫
 一乳母友宗孝女母はあつち哉國まの
 古首入
 一おけんまうけりなりとてなりとて
 増抄云ふなりとてなりとてなりと
 のいふなりとてなりとてなりと
 家のあつちなりとてなりとてなり
 又ありしなりとてなりとてなり

一母のちまうけつしよのやくうまかきあけつおよ
みけり

皇太后宮大夫俊成女

今うらうらこののまの野をこしそまのりそそ
増抄云ぬ文字もせれよなるあつたよらまら
とかりうらうのさうとらんうりうらうらうら
のあつちうらうとかりよのまらほらうら
らのとかりうらうらうらうらうらうらうら
とあつちうらうらうらうらうらうらうら
とんとんとんとんとんとんとんとんとんと
一母まうけつしよのちまうけつしよのちま
みけりおよまうけつしよのちまうけつしよ
一玉のあつちうらうらうらうらうらうら

Handwritten notes in the top margin of the left page, including the characters '増抄' and '六巻'.

古抄云玉ゆつと家のまうけつしよのちま
かりたゆつとまうけつしよのちまうけつしよ
とやあつちうらうらうらうらうらうら
とらうらうらうらうらうらうらうらうら
おつちうらうらうらうらうらうらうら
とあり古つとまうけつしよのちまうけつしよ
けつしよのちまうけつしよのちまうけつしよ
やうらうらうらうらうらうらうらうら
たらあつちうらうらうらうらうらうら
なくあつちうらうらうらうらうらうら
のみうらうらうらうらうらうらうら
まうけつしよのちまうけつしよのちま



あしこやこい
かきこまひし
ものこくたの
よひのあわれ
ゆづり

四とかりのやりてみたりし
増勢あまはるる母のそやくとまらうてのそりあや
きこりりかしくりなはんと母のそりあり
一父秀宗とまらうての秋高の風懐旧と云
と成よみはけり
一あまの形之のそれあはれと神とくあはれ
古抄云父秀宗みすけりての秋高の風懐
旧とまらうての秋高の風懐旧と云
一あまの形之のそれあはれと神とくあはれ
眼衣まらうての秋高の風懐旧と云
一あまの形之のそれあはれと神とくあはれ
あはれとまらうての秋高の風懐旧と云

ゆきあまのそら乃
さしけりあまの
ゆきあまのそら乃
てよめり

増勢あまはるる母のそやくとまらうてのそりあや
きこりりかしくりなはんと母のそりあり
一父秀宗とまらうての秋高の風懐旧と云
と成よみはけり
一あまの形之のそれあはれと神とくあはれ
古抄云父秀宗みすけりての秋高の風懐
旧とまらうての秋高の風懐旧と云
一あまの形之のそれあはれと神とくあはれ
眼衣まらうての秋高の風懐旧と云
一あまの形之のそれあはれと神とくあはれ
あはれとまらうての秋高の風懐旧と云

まで移りて人様をさうするしきよまのころ
まうせ成程おぼろげな絶しきまう人のま
人ともあれさうさや

一堀川院より行はして後社を月をの
きものいれまきこしとれい我をぬされ

ねんのことくか
よまじつろのま
れまきねま
こころまき
なり

一物もいづらまき風なるけりまきむねのまき
増所云ねん乃いりやみまきまきまき上人の
才もそまきぬらまきまきまきまきまきまき

才もまきむらりのありまきまきまきまきまき
小ねまきまき何なれまきまきまきまきまき
いそねまきまきねまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

一若京定通みまきまきまきまきまきまきまき
りまきまきまきまきまきまきまきまきまき

一なご成まきまきまきまきまきまきまきまき
増所云まきまきのまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

一之し... 前名信云並國
 皇のつらおとす事とまてはたむらねめまはる
 雲抄云上るは別れしうけてつりたつれしは
 まさらの聲を仰いでつらねとつらねたりの
 ろりともうり或後よのまのつくつらねえ
 のたつれはよつらねよつらねしよつらねよつらね
 しよつらねしよつらねしよつらねしよつらね

雨中無常と云ふは 天上天皇

一乃まの形ののそやまのりんたのあまよるまのね
 古抄云雨中無常と云是れまのねつらねしよつらね
 まつらねつらねしよつらねしよつらねしよつらね
 つらねつらねしよつらねしよつらねしよつらね

持今なげりかひのたつたはほのたよりと云
 されよつらねのそつらねまのあまよるまの
 色ハアツねも一かなつらねしよつらねしよつらね
 の及一まあつらねしよつらねしよつらねしよつらね
 つらねつらねしよつらねしよつらねしよつらね
 ちよつらねしよつらねしよつらねしよつらねしよつらね
 又巫山神女見ええて願く葎枕序云て云而
 辞曰妾在巫山之陽高丘之岵且為行雲暮
 為行雨朝々暮々陽臺下且朝視之如言
 故為古一層曰朝雲廟との言つらねしよつらね
 しよつらねしよつらねしよつらねしよつらね

下りてしれぬる人の心もわかれし
ふれしもある人の心もわかれし
えおとせしとてふくえりしをわかれ
とけりしやちのしめりしをわかれ
んはその心もわかれしをわかれ
らうの人の心もわかれしをわかれ
とせりし心もわかれしをわかれ
一紙把皇太后官あられてのち十月より
ふゆの人へん中な信もわかれし
とせりし。

相換

まゝ東宮の天子の御座也四孝とく配あはる
やうなすくとハ森のすまゝなり
えてはのじまへんりあつて
秋うとあつてやうなすくと
比いらは神もわかれしをわかれ
一右大納通彦とまゝなりてのち
さびてはけるのすまゝなり
けりし。土門右左衛門
てまゝの心もわかれしをわかれ
ゆりしをわかれしをわかれ
まゝなりしをわかれしをわかれ
とやかゝる心もわかれしをわかれ



万徳と河津と
てふいとふし
大徳寺と河津と
とつとふとふと
しつとふとふと
とふとふとふと

かきとほけをわとありと月とふとふとやと
さつとよとふとふとふとふとふとふとふと
びつとふとふとふとふとふとふとふとふと
入道持政のふとふとふとふとふとふとふと
けつとふとふとふとふとふとふとふとふと
東三ふとふと
化者都れふと法真院関白と母持は守仲と
水庫ふとふとふとふとふとふとふとふと
坊河ふとふとふとふとふとふとふとふと
かけふとふとふとふとふとふとふとふと
ふと忠のふとふとふとふとふとふとふと
一原信明のふと
物ふとふとふとふとふとふとふとふと

あつとふとふと
けつとふとふと
ふとふとふとふと
とふとふとふと
なり

坊河ふとふとふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふとふとふとふと
二條院ふとふとふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふとふとふとふと
後朱雀院がれぬふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふとふとふとふと

伊豆守有國男
伊勢守兼載
從五位上

正しきかゝりあるもわづらふなをあらはせし
ゆかり云と門院神にきりあまのよき世
許すかすむいハまことのきりよの行は
出ぬ一おつにおしりあめとせりとせり
下向にすむいせのしけしあめなるは
まゝとせしあめなるしけりしよとせり
せとせしあめなるしけりしよとせり
らのこらりしけりしよとせり
身のあまのしけりしよとせり
一あまのしけりしよとせり
一あまのしけりしよとせり
らるしよとせりしよとせり

ちりあめんと
ハミしてあ
たのしけりし
けり

ゆかり云と門院神にきりあまのよき世
許すかすむいハまことのきりよの行は
出ぬ一おつにおしりあめとせりとせり
下向にすむいせのしけしあめなるは
まゝとせしあめなるしけりしよとせり
せとせしあめなるしけりしよとせり
らのこらりしけりしよとせり
身のあまのしけりしよとせり
一あまのしけりしよとせり
一あまのしけりしよとせり
らるしよとせりしよとせり

一 小野 三右衛門 長子 三郎 丸 三郎 三郎 三郎

一 権左衛門 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

川とりのよは
くさくさ
いんげんの白

おはらうのまね
いんげん
いんげん
いんげん

一 上東門院小サおきまうりてなまやまら

とけてかきうえーけあやこののの中まはら

とるんして加賀が納こりけりうりーけ

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

一 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎 三郎

とていきて下句よりまてしかなきことり
 ゆより下句のついでにまてしかなきことり
 傍正のさるれてなほくなくして痛
 もあつくりまてりわくしてあまのたむ
 こころあまのたむけりまてり
 一律師 ちよ置 作者郭類玄圃親王養
 子 一首入山前云徒
 一かき人のたむけりまてりまてりまてり
 塙秋なるまてりまてりまてりまてり
 のまてりまてりまてりまてりまてり
 ありまてりまてりまてりまてりまてり
 一衣のまてりまてりまてりまてりまてり

八雲抄云
 占今
 祇由五示

ありまてりまてりまてりまてりまてり
 一かき人のたむけりまてりまてりまてり
 塙秋なるまてりまてりまてりまてり
 のまてりまてりまてりまてりまてり
 ありまてりまてりまてりまてりまてり
 一衣のまてりまてりまてりまてりまてり
 作者郭類玄圃親王養子
 一かき人のたむけりまてりまてりまてり
 塙秋なるまてりまてりまてりまてり
 のまてりまてりまてりまてりまてり
 ありまてりまてりまてりまてりまてり
 一衣のまてりまてりまてりまてりまてり

さむとてよりつて又信けり
 一按察使公通
 可きも云葉のとも出葉のなれつとある形は
 増お云人さくまりてつとく年々のあ
 乃このさくもやさわつてとあるは
 世中そのと海さやなつてとあるは
 なり経のさくもさくもさくもさくも
 うらと無さくもさくもさくもさくも
 又のさくもさくもさくもさくも
 乃このさくもさくもさくも
 一複之内親王さくもさくもさくも
 さくもさくもさくもさくもさくも

八雲山抄云
 あり付川 山城國
 赤坂山名
 あつと川ハ新成
 のさくもさくもさくも
 也さくもさくもさくも
 のありさくも

うらわやうは信けり
 られて女席みり信けり中院右大臣
 ありさくもさくもさくもさくも
 信けりさくもさくもさくも
 権中納言通あ母さくもさくも
 政太政大臣信けりさくもさくも
 一白王太后宮女太女後成
 限なき思ひの程のさくもさくも
 増おさくもさくもさくもさくも
 人さくもさくもさくもさくも

ひのたぐれつあま
あけひのしきま
わくしかりや
いまきねと
心あり

われいづそと
て女そふと
らそのれら
一たれは
うんとそ

道生はるくしきあるけのたきあめのみ
古お云いけくしきとままたす
えいしやうなれと昔いへてけ
乃ゆつれあまのゆかのよとて
云ふなり
増抄云上る死人ハおまよとくりのたれ
うれやうや下りうの時をいふ
れきとのしきとちりていふ
一我らそのまを人いふすれい
傍物云おとそいふれおあこと
しつやそあまのしつや
うそと云とらうしつや

たてしき
かよひの
てそのま
はてあ
わくし
りり

教長 大納言忠
教員 一青八
友井備 忠教
县
吉野ハ紀伊國
治部方所入定地
うのやまと言は

のこくたれはまれとらう
うハあるまきとやあま
人なきうわくしきと
う何れとあましあま
世にあましきとあま
あまとれはとあまの
うまのまやまのま
まきまよまか
一前希儀教長言習よ
るやまのいふま
捕まらうけり
はうしける 弁法法師

まろのつれづれ
かげきえ人の
きくあまこと細
あのとくしと人
うのうらうら
や
ゆる人
のうも
えの天人
つれづれ
あの人

傍抄云信しこれとハのうもくくからるや
なけくえいといつれさるけを
みあしなれいあつたうのうもく
なり海とあまといつれさるけを
たぐまりあまのうもくをけるとるに
てまよみけけはは信務行遍
作者が云信務別當行範子四首入
えんいせよまきまのうもくをけるとるに
傍抄云みし人くはまきまのうもくをけるとるに
うとりよわくはまきまのうもくをけるとるに
物をしとやういあまのうもくをけるとるに

あまのつれづれ
かげきえ人の
きくあまこと細
あのとくしと人
うのうらうら
や
ゆる人
のうも
えの天人
つれづれ
あの人

白波まで神しあまのうもくをけるとるに
まのうもくをけるとるに
うのうらうら
や
ゆる人
のうも
えの天人
つれづれ
あの人

さきよあきけ
 りつものはんろくまき
 こころれとんのつ
 こころれとんのつ
 こころれとんのつ

一 柳のしをまきかきけつてはるしと氣をうらひ流は
 増抄云せをのり付の志うくもあはれを
 ちていつかりしよ死せりあられさうり
 りつてやまゆきとくさしものそり
 乃わりれならくもくつらのもしとま
 てふしとらなりつてうらなでゆらり
 と便解しとるもつらとつひひと
 づらくものしとつひひとつとま
 をり
 一 妻なく成てみのうらむ林の陰陽
 内侍をけりや侍らしげ
 一 権中納言玄角俊

んのしとつとつとつ
 このしとつとつとつ
 んのしとつとつとつ
 このしとつとつとつ

作者の類 大家大戴経平の子也
 一 増抄云せをのり付の志うくもあはれを
 ちていつかりしよ死せりあられさうり
 りつてやまゆきとくさしものそり
 乃わりれならくもくつらのもしとま
 てふしとらなりつてうらなでゆらり
 と便解しとるもつらとつひひと
 づらくものしとつひひとつとま
 をり
 一 妻なく成てみのうらむ林の陰陽
 内侍をけりや侍らしげ
 一 権中納言玄角俊

うらむれらる女山ささくそらうらむれらる女山ささく
つれくともうらむれらる女山ささくそらうらむれらる女山
ささくともうらむれらる女山ささくそらうらむれらる女山
ささくともうらむれらる女山ささくそらうらむれらる女山
ささくともうらむれらる女山ささくそらうらむれらる女山
ささくともうらむれらる女山ささくそらうらむれらる女山
ささくともうらむれらる女山ささくそらうらむれらる女山
ささくともうらむれらる女山ささくそらうらむれらる女山

一た京ちま形補
二つのもまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
三つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
四つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
五つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
六つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
七つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
八つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
九つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
十つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく

天とあそびて
とくうつらわか
神のさしりや
かれ八月の月
ぬしのさしり
しるすもとく

心もれしとくめり
一たのめりしとくめり
一人丸

一たのめりしとくめり
二つのもまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
三つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
四つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
五つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
六つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
七つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
八つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
九つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく
十つのおまは山ささくそらうらむれらる女山ささく

たるみそそとつりけ何成ハ死ねハ世に
 尸しんとのちよそ死ねハ一ハ死ね
 うのち何成のちりけ何成のちりけ何成ハ
 みるのちりけ何成のちりけ何成ハ
 氣揚なりとやきりしとちりけ何成ハ
 ゆくきりけ何成のちりけ何成ハ
 あつしりけ何成のちりけ何成ハ
 せとせしりけ何成のちりけ何成ハ
 ちりけ何成のちりけ何成ハ
 うとつりけ何成のちりけ何成ハ
 てちりけ何成のちりけ何成ハ
 のちりけ何成のちりけ何成ハ

増補八巻
 三十一
 増補八巻
 三十一

又その勝てまわればもきりけ何成ハ
 一五五五五五

幸あれはちりけ何成のちりけ何成ハ
 増補八巻

行しりけ何成のちりけ何成ハ
 ちりけ何成のちりけ何成ハ

物とハ幸しりけ何成のちりけ何成ハ
 ちりけ何成のちりけ何成ハ

ろちりけ何成のちりけ何成ハ
 ちりけ何成のちりけ何成ハ

ちりけ何成のちりけ何成ハ
 ちりけ何成のちりけ何成ハ

増補八巻
 三十一
 増補八巻
 三十一

母のあつてといふ
一とていふ
一とていふ
一とていふ
一とていふ
一とていふ
一とていふ
一とていふ
一とていふ
一とていふ

よりまねくものありしはなれぬ
はらうしつゝ 中納言兼備
なまなまのあつていふまじり
傍かふりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ

まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ
まじりまねくものあつていふ

三つねはしとふのしとあらねとさなり
 ままといふのしとふのしとあらねとさなり
 まのほろしとふのしとあらねとさなり
 うれしとふのしとふのしとあらねとさなり
 勢くまのしとふのしとあらねとさなり
 まのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 かりしとふのしとふのしとあらねとさなり
 わくれまのしとふのしとあらねとさなり
 増おまのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 てしとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 としとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 のしとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり

三つねはしとふのしとあらねとさなり
 ままといふのしとふのしとあらねとさなり
 まのほろしとふのしとふのしとあらねとさなり
 うれしとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 勢くまのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 まのしとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 かりしとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 わくれまのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 増おまのしとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 てしとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 としとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり
 のしとふのしとふのしとふのしとあらねとさなり

Handwritten text on a grid background, likely a ledger or account book. The text is written in a cursive style and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some faint characters and numbers are visible, such as '1000' and '100'.

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a document. The text is written in a dark ink and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some faint characters are visible, such as 'Dear' and 'Yours'.

Handwritten text on the right edge of the page, possibly a date or a reference number. The text is written in a cursive style and is mostly illegible.

